

2017年度ラオス活動報告

期 間：2017年8月10日～13日

場 所：ビエンチャン

参加者：小久保 謙一（国際委員会）、張 同輝（国際委員会）、安部 貴之（国際委員会）、瀧澤 亜由美（国際委員会）、浦辺 俊一郎（国際委員会）、矢部 広樹（国際委員会）、松原 弘和（国際委員会）、兵藤 透（えいじんクリニック）、長沼 俊秀（大阪市立大学）

2017年度は8月にラオスを訪問し、ラオス腎臓学会の設立支援および透析液清浄化への技術支援を行った。これらは全て、NPOいつでもどこでも血液浄化インターナショナルとの共同事業として実施した。岩田和子さま（ラオスインターナショナルスクール）に通訳をしていただいた。

1. ラオス腎臓学会設立準備

ここ数年の交流を通して、国際腎臓学会、日本透析医学会など各種学術団体との交流活動の受け皿となる組織としてラオスに学会を設立する必要があることは、ラオス側との共通認識となっていた。そこで、ラオスにおける透析医療の中心となっているミタパブ病院の透析センター長のファンカム先生と準備を開始した。8月に訪問した際に、ファンカム先生と設立に必要な手続きや日本側から協力できることなどを話し合い、3月に設立総会を開く予定で準備を進めることとなった。

2. 透析液清浄化に向けた技術支援

ミタパブ病院などビエンチャン市内の3施設を訪問し、ETRFの設置、RO水、透析装置からのETおよび生菌数測定を実施した。その際、技術的な問題点等について、現地の医師、看護師、エンジニアとディスカッションを行った。

3. JICA ラオス事務所への訪問

JICA ラオス事務所を訪問し、我々の活動を報告するとともに、現地のJICAの活動について説明を受けた。引き続き、情報交換を行いながら活動を続ける予定である。